

報告書名：成人歯科保健におけるデータベース構築に関する研究

研究者名：児島正明<sup>1)</sup>、松永信<sup>1)</sup>、竹内誠<sup>1)</sup>、山下皓三<sup>1)</sup>、日野陽一<sup>2)</sup>、伊藤博夫<sup>2)</sup>、井上昌一<sup>2)</sup>、  
古市保志<sup>3)</sup>、四元幸治<sup>3)</sup>、和泉雄一<sup>3)</sup>

所 属：<sup>1)</sup> 鹿児島県歯科医師会、<sup>2)</sup> 鹿児島大学歯学部予防歯科学講座、<sup>3)</sup> 同歯科保存学講座

#### 1) 歯周疾患検診マニュアルの作成

鹿児島県歯科医師会が制作した事業所歯科健診マニュアル第4版(平成14年)を基に、歯周疾患検診マニュアルを作成した。歯周疾患検診マニュアルに基づいた健診を各市町村が実施することにより、統一された方法での検診実施が期待できる。また、歯周疾患罹患状況はCPIにより診査され、CPIを用いた他の地域での検診結果との比較が可能である。さらに、口腔保健に関する質問調査票も作成した。質問調査項目には、「健康かごしま21」における歯科分野の数値目標に係る項目(歯間部清掃器具の使用、定期的な歯石除去等、定期的な歯科検診)を含めた。

#### 2) 歯周疾患検診結果入力用フォーマットおよび入力マニュアルの作成

データベース構築のためには、検診実施後、検診票および質問調査票の結果の電子化が不可欠であり、統一した入力用フォーマットに検診結果データを入力する必要がある。結果の入力作業は各市町村において行うが、できるだけ入力作業が容易になるように工夫した入力用フォーマット(エクセルファイル)および入力マニュアルを作成し、歯周疾患検診マニュアルとともに各市町村に配布した。また、データ入力後に結果の表、図が自動的に作成されるように工夫することにより、市町村の歯科保健担当者による保健事業・保健活動の現場における検診結果の活用を促した。

#### 3) 歯周疾患検診結果を収集しデータベース化する枠組みの構築

検診および質問調査結果は、各市町村において入力用フォーマット(エクセルファイル)に入力された。その後、市町村から各管轄保健所に集められ、保健所を通じて県の歯科保健担当部署に集まる枠組みを構築した。

#### 4) 収集された歯周疾患検診結果と「健康かごしま21」目標値の比較

歯周疾患検診マニュアルおよび入力マニュアルに基づく検診および質問調査を実施した市町村は、検診では26市町3,097人、質問調査では23市町村6,953人であった。

「健康かごしま21」における目標値と歯周疾患検診結果の比較を以下に示す。成人期の歯周病予防の目標は進行した歯周炎の減少、歯間部清掃器具の使用者の増加である。CPI最大値3および4である者の割合は、目標値では35-44歳において33%以下、45-54歳において47%以下に対して結果では42.1%、54.0%であった。歯間部清掃器具の使用者の割合は、目標値では35-44歳において60%以上、45-54歳において60%以上に対して結果では33.3%、30.2%であった。歯の喪失の防止の目標は80歳で20歯以上、60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の増加、定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の増加、定期的に歯科検診を受けている人の増加である。55-64歳で24歯以上、75-84歳で20歯以上を有する者の割合は、目標値では50%以上、20%以上であるが、結果では54.5%、25.8%であった。定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人、定期的に歯科検診を受けている人の割合は、目標値では40%以上であるが、結果では19.5%、14.6%であった。